

<令和4年10月定例記者会見>

1 開催日時

令和4年10月6日（木）午後1時30分から午後1時50分まで

2 場所

滝沢市役所 庁議室

3 来庁した報道機関

岩手ケーブルテレビジョン、NHK 盛岡放送局、岩手日報社、河北新報社、盛岡タイムス社、読売新聞社、朝日新聞社、毎日新聞社

4 発表事項

- (1) 第44回チャグチャグ馬コ写真コンテスト入賞作品カレンダー2023の販売について（経済産業部観光物産課）

滝沢市観光物産協会では、第44回チャグチャグ馬コ写真コンテスト入賞作品カレンダー2023の販売を開始しました。8月17日に行われた写真コンテストの入賞作品12点を月毎に掲載しております。販売価格は1部1,500円（税込）で、ネットショップ「チャグまるしえ滝沢」、ビッグルーフ滝沢内の協会窓口で販売するほか、ふるさと納税返礼品として登録される予定となっています。カレンダーの販売は、チャグチャグ馬コのPR、馬事振興を目的とし、収益金の一部を滝沢市チャグチャグ馬コ同好会に寄附する予定としています。

- (2) 新型コロナワクチン接種について（滝沢市新型コロナウイルスワクチン接種実施本部）

初めに、新型コロナワクチンの4回目接種についてであります。現行の4回目接種の対象者は、60歳以上の人と18歳以上60歳未満で基礎疾患を有する人、医療従事者、高齢者施設、障がい者施設等の従事者です。本市では7月1日から4回目接種を開始しており、10月3日の接種からはオミクロン株に対応した、「従来株とBA.1株の2価ワクチン」を使用しております。4回目接種の状況ですが、9月末日現在の60歳以上の人の接種率は73.36%、基礎疾患のある人や医療従事者などで接種を終了した人は2,554人です。

次に、オミクロン株対応ワクチン接種についてであります。オミクロン株対応ワクチンの接種対象者は、2回目の接種を終えた12歳以上の市民で、9月末日現在で約46,000人です。10月3日から接種が開始になっております。なお、これまで新型コロナワクチンの特例臨時接種の実施期間は令和4年9月30日まででありましたが、令和5年3月31日までに延長になっております。

次に、滝沢ふるさと交流館での集団接種の予定であります。10月23日（日）の午前と午後、11月19日（土）の午後を予定しております。12月以降も、月1週末程度の実施を予定しておりますが、日程が決まり次第、ホームページや接種券に同封する案内チラシなどでお知らせいたします。

次に、5歳から11歳の小児への3回目接種についてであります。小児への3回目接種は、9月27日（火）から始まっております。2回目の接種から5か月以上の間隔をあけて接種できますが、9月末日現在で2回目接種を終了している小児は、約1,150人です。小児への接種は、9月6日から努力義務が適用されていますので、感染症の

まん延防止と感染した場合の重症化予防のため、接種にご協力をお願いしたいと思います。しかしながら、ワクチン接種は強制ではありません。保護者と本人が納得した上で、接種を受けていただきたいと思いますと考えております。

5 市発表案件について記者からの当日質問

記者：チャグチャグ馬コのカレンダーの販売はいつからですか。

観光物産課長：既にネットショップでの販売は開始しております。その他の計画については、本日、販売元である観光物産協会の菊池事務局長に来ていただいておりますので、菊池事務局長からご紹介させていただきたいと思います。

(一社)観光物産協会事務局長：正式には10月1日から窓口、チャグまるしえ滝沢で販売しております。先駆けまして、9月25日に協会祭り(チャグまるしえ滝沢～初秋の収穫祭～)が行われましたが、その時にも販売しました。今後は、ふるさと納税の返礼品として、10月中旬から下旬にかけて開始することにしております。

記者：ワクチン接種について、オミクロン対応を10月3日から始めたということですが、接種体制は個別で行っているのですか、集団でも行うのですか。

健康推進課長：これまでと同様に集団接種は滝沢ふるさと交流館で月1週末と考えており、個別接種については個別医療機関でこれまでと同様に行っていく予定です。

記者：4回目接種と並行してということだと思えますが、集団接種もオミクロン対応ですか。

健康推進課長：10月の集団接種からオミクロン株対応のワクチンで行っております。

記者：オミクロン株対応ワクチンの在庫状況はどうですか。

健康推進課長：まだ入荷になったばかりなので、在庫は今のところ十分間に合っております。

記者：チャグチャグ馬コカレンダーについて、全く初めての作成ですか。

観光物産課長：今年度初めて実施するものです。今まで写真コンテストは実施していましたが、カレンダーとしては作っておりませんでした。

記者：滝沢市内とネットでの販売ということで、誰でも買うことができるということでしょうか。

観光物産課長：そのとおりです。

記者：チャグチャグ馬コは岩手の風物詩で有名な行事ですので、そういったものを広く発信するような機会になると思いますが、カレンダーを通じて魅力を発信するという点について、どのようにお考えですか。

市長：年中通じて発信できて良いと思っております。チャグチャグ馬コは、年に一度の晴れ舞台と言われています。それ以外の時にも発信できるということは非常に良いことだと思っており、興味のある全国の皆さんにはぜひ購入していただきたいと思います。

6 その他記者からの当日質問

記者：来月に行われる滝沢市長選の件で、前回の市長選は無投票で当選でしたが、今回は自民党の元県議の出馬が先日発表されて選挙戦になります。相手候補との違いや所感を教えてください。

市長：相手候補の主張を知ることができるのは、報道に載っている分のみですので、実際

この滝沢をどうするのかということについては、よくわからないという状況です。ただ、私のやるべきことは、私の考えを市民の皆さんに着実にお伝えをすることです。私は何をやりたいのかというと、滝沢市というのはもともと素晴らしいです。これまでの村民、市民、その皆さんの努力、あるいはこれまでの首長の努力、さらには議員の努力。滝沢というのは盛岡市の隣にあって、本当に素晴らしいところだと思っております。滝沢には課題も多いので、その課題を解決して、今の滝沢よりもさらに素晴らしい滝沢にしていきたいと思っております。まずひとつは、滝沢市には中心市街地がないと私は思っております。この中心市街地については、一昨年3月には東北農政局と事前調整が終了し、今年3月には、岩手県知事から市街化区域へしてよいという許可をもらっており、着々と進んできております。一昨年3月には、道路工事の予算も議会から付けていただき、中心の道路も進めているということで、これらをどんどん進めていって、まずは滝沢に不足している中心市街地をつくる、そこには賑わいの中心、あるいは交通の中心、行政も病院も、それから勉強することも様々なことができる賑わいの中心にしたい、もっと良い滝沢にしたいと思っております。それから、滝沢の交通を考えると、東の方は4号線やIGRがありますが、すべて盛岡駅に向かっております。南の方も、田沢湖線、あるいは46号線があり、それらも全部盛岡駅に向かっております。真ん中の線路、県道223号線ですが、盛岡滝沢線も盛岡駅方面に向かっており、滝沢の交通はすべて盛岡駅方面に向かっております。逆に言うと、小岩井と滝沢駅の付近を繋ぐ交通が非常に不足しているのではないかと、それをここの中心市街地を経由することによって、なんとか繋ぐことができないか、盛岡駅に向かって交通をなんとか緩和して、もっと横のラインをしっかりと、市民のためにならないだろうかと考えて、そうしたことを少しずつ実現し、もっと素晴らしい滝沢に変えていこうと考えております。

記者：中心市街地というと、市長の中でこのあたりというのは、土地の転用許可を含め、おおまかに決定しているのですか。

市長：まず基本的には民間の力を借りて中心市街地をつくっていかうと考えており、民間の活力を利用するという事です。開発業者も決まっております、そこと市の連携はある程度取れています。私たちがどのような中心市街地にしたいかはわかっているため、私たちの意向もある程度入れた開発許可が知事に出るものと思っております。

記者：市長選に向けての市長自身の準備状況を教えてください。集会や街頭演説など、どういった選挙戦を展開する予定か、決まっていれば教えてください。

市長：言いにくい部分ですが、今一番注意しなくてはならないのはコロナだと思います。私自身候補者の段階でコロナに罹ってはいけないうし、私がそのような状況で回って歩いてコロナを広めてもいけないです。そういう点に気を付けた後援会活動をやりたいと思っております。今進めているのは、私にも後援会があり、全市に散らばっている支援者を通じて、支持を広げていきたいと思っております。私は、出歩き訪問するのが好きでしたが、今回はその部分については実行できないと考えております。

記者：今回の市長選挙で、争点になりそうなところの感触があったら教えてください。

市長：私は、争点というか、滝沢市の課題はあると思っておりますが、盛岡市のすぐ隣にあって、昼間人口が夜間人口に比べて14%くらい低く、その分盛岡に行っているか、八幡平に行っているか、外に出ているということです。その点を少なくできればよいと思っていま

す。これは、滝沢市内に働く場所や勉強する場所があればよいのですが、そのような課題があるということです。さらには、地元購買率も低く、盛岡などに行って買い物をするので、その点を市内の事業者に頑張ってもらって、あるいはこの中心市街地をうまく活用して、できる限り地元購買率も上げなければならないと思っています。それから、交通の便は、構造的なものと高齢化に伴うもの両方ありますが、最初に言った盛岡駅に全部行っているというのは構造的なものだと思っています。この構造的なものについては、中心市街地を活用してうまく緩和していったらと考えております。それから、高齢化に伴うもの。要するに若いころは車で歩いていたが、今は高齢化で車を運転できなくなってきたというように、足をどのようにするかという問題について、タクシーも公共交通機関ですので、それも含めてどのようにしたらよいか今後考えていきたい、課題になると思っています。

記者：中心市街地をつくっていききたいというのは、滝沢市のどのあたりですか。

市長：鵜飼地区です。滝沢ニュータウンとビッグルーフ滝沢の間、13haです。

記者：鵜飼地区に中心市街地をつくりたいと言えればよいですか。

副市長：市役所周辺の鵜飼地区です。中心市街地として進めているのは、13haは商業施設用地ですが、市役所や隣接する公園も含めて中心市街地として色々な機能を持っていききたいという形で進めておりますので、その中での新たな開発というところでは、市長が話したとおりです。

記者：鵜飼地区の中の市役所などを省いた商業用地として13haあるということですか。

副市長：そのとおりです。

